西浦焼、文様鮮やか

とうしん美濃陶芸美術館 明治期の68点並ぶ

多治見市

多彩な技法で製作された西浦焼を紹介する展示会場
＝多治見市虎渓山町、とうしん美濃陶芸美術館

多治見市虎渓山町の「館で11日から、明治時代の美濃焼を代表する西浦焼をテーマにした企画展「―明治の陶磁器―多治見西浦焼」が始まった。4月30日まで。

同美術館は、美濃陶芸文化の発展を目的に2015年5月に開館。東濃信用金庫が1986年度から行っている「美濃陶芸作品永年保存事業」で購入した作品などを所蔵し、年4回展示内容を入れ替えている。

西浦焼は3代目西浦圓治（1806～84年）から5代目西浦圓治（56～1914年）の下で製作され、セントルイス万国博覧会で金賞を受賞するなど世界で評価された。

会場には、市教育委員会や岐阜市歴史博物館、個人などが所蔵する68点を、赤絵、染付、上絵、釉（ゆう）下彩といった技法ごとに展示。西浦焼の代表的な技法である釉下彩は、素地に描画彩色してから透明釉をかけて高温度焼成する技法で、吹絵、盛り上げ、彫刻を併用した美しい文様が特徴。洋絵の具で上絵を施したティーセットなども並び、訪れた人がじっくりと見入っている。（有我友香理）

無断複製・転載を禁じます